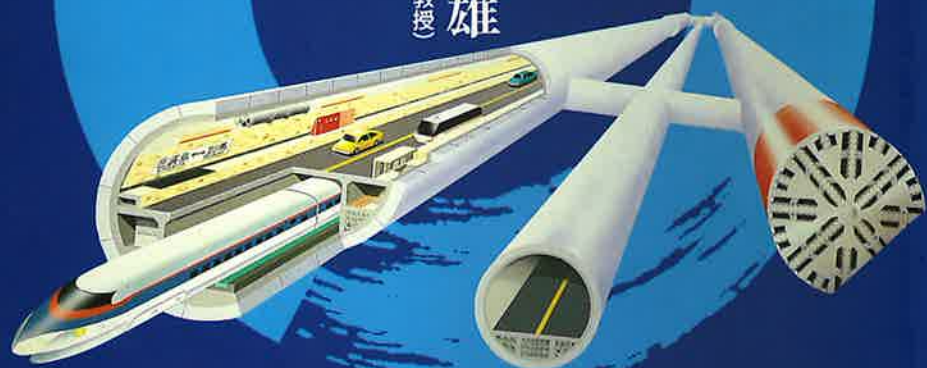


日韓トンネル

ネオ・シルクロードの起点から

プロジェクト

監修
佐々保雄
(北海道大学名誉教授)



世界日報社

日韓トンネル プロジェクト

ネオ・シルクロードの起点から

監修
佐々保雄
(北海道大学名誉教授)

世界日報社

日韓トンネル プロジェクト

ネオ・シルクロードの起点から

定価:2000円(本体1942円) ISBN4-88201-051-8 C0036 P2000E

日韓トンネルプロジェクト*目次



名護屋浦から対馬海峡を望む

VOCフリーサービス



日韓トンネルの韓国側入口となる巨濟島

第一章 国際ハイウェイ建設の発端

..... 9

西堀栄三郎の受けた感動

「石橋を叩けば渡れない」

必要な「異質の協力」

国際ハイウェイ建設提唱の核心

文鮮明師と「統一運動」

「科学の統一に関する国際会議」の歴史

第二章 日韓トンネル建設の現実的な意義

..... 37

佐々保雄の受けた感慨

「日韓トンネルはいつごろ完成するのか」

総括委員長の報告

国際ハイウェイはポスト冷戦時代の人類の共通目標

東アジアハイウェイと日韓トンネルの経済効果

英仏海峡トンネルの開通

日韓関係から見た「日韓トンネル」の意義

第三章 本格調査と研究の充実

..... 65

「日韓トンネル研究会」の発足

佐々保雄の会長就任挨拶

動き出した研究会

金山政英元駐韓大使の持論

日韓トンネル研究会九州支部の発足

韓国での日韓トンネル研究

「技術協力ほど親善に役立つものはない」

第四章 地質調査結果と諸問題

..... 93

トンネル建設のための地質調査

トンネル工法

現地からの報告

第二部会△地形・地質▽の報告
第三部会△設計・施工▽の報告

- ① 道路トンネル計画
- ② 第三部会提示案
- ③ 鉄道トンネル案
- ④ 第二部会提示案
- ⑤ 沈埋トンネル案
- ⑥ 沈設（水中）トンネル案
- ⑦ 呼子―杵岐間橋梁計画

第五章 トンネル屋の気概

..... 123

トンネル技術者の夢

「関門」から「青函」、そして「日韓」へ

用途は多目的に

海上基地で工期短縮

自然との調和を図る

第六章 周辺地域の開発と展望

..... 137

美しい島々、「杵岐」と「対馬」の未来像

杵岐の現実と問題点

杵岐の可能性と方向づけ

四町のこれからのテーマ

対馬の現実と問題点

ニューTUSUSHIMAへの提案

「ニューアイランズ構想」の要件

東松浦・唐津・多久の将来イメージ

玄海コースタルリゾート構想

多久・鳥栖シリコンバレー構想

第七章 経済効果と資金調達

161

- 東北アジア諸国の資源・産業と交流
- 東北アジア四カ国間の貿易
- 東北アジアの経済開発プロジェクト
- 日韓トンネルの交通量想定
- 東アジア高速道路網・日韓トンネルの開発効果
- 東アジア高速道路網への資金調達
- ジャパン・マネーの活用策
- 資金調達法の提案

第八章 東アジア経済圏へ続く道

191

- 東アジア共同体の成立
- 好転した世界情勢
- 経済共同体成立の三つの条件

- 日本のリーダーシップのとり方
- 日韓中の国際プロジェクト
- 動き出した中国
- 「富を得るには道を造れ」

資料篇

217

- 国際ハイウェイ・日韓トンネル・プロジェクト関連年表
- 国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会組織図
- 日韓トンネル研究会役員
- 日韓トンネル研究会九州支部役員
- 日韓トンネルルート案 ・ ルート別縦断面図
- ルート別路線比較 ・ 他の海底トンネルとの比較

あとがき

229

資料提供

- ・ 国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会
- ・ 財団法人亜細亜技術協力会・日韓トンネル研究専門委員会
- ・ 国際ハイウェイ研究会（韓国ソウル）
- ・ 韓日トンネル技術研究会（韓国ソウル）

編集協力

- ・ 本郷路社

日韓トンネルプロジェクト

——ネオ・シルクロードの起点から

平成五年四月七日 第一刷発行

監修／佐々 保雄

編著／国際ハイウェイ建設事業団
定価／二、〇〇〇円（消費税込）

発行所／(株)世界日報社

東京都渋谷区宇田川町二二の九

郵便番号 一五〇

電話 東京〇三―三三四七六―三三四一一

振替 東京一―九二五六〇

印刷／中央精版印刷

もし乱丁・落丁、その他不良な場合がありましたら、お取り替えいたします。お問い合わせの書店か弊社へお申し度ください。

佐々 保雄（ささ やすお）

明治40年、北海道生まれ。

昭和5年、東京帝国大学理学部地質学科卒業、北海道大学理学部地質学科教授をへて、同大学名誉教授。

日本鉄道建設公団青函（トンネル）建設局地質顧問、日本山岳会会長、日韓トンネル研究会会長を歴任し、現在に至る。